＜第２１号＞

G・アダムスキー通信

（ジョージ）

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒頭語

アダムスキー哲学（生命の科学）を実践していくうえで、日常生活での様々な判断の基準が、経験によるものかテレパシーなのか、考えたこともないかもしれません。しかし、この違いを意識することが、実践という舞台において大変重要となるのです。

簡潔に言えば、経験に基づく推論は、「体験していないことは“分からない”」というものです。一方、テレパシーは、「経験していないことでも“分かる”」ことだと思われます。

例えば、毎日、２Ｌのパック酒を飲んでいる人は、パックを持った瞬間に、大体の残量を経験から当てることができます。また、“刑事の感”と言われるものも、実際には、テレパシーではなく、かつての経験から判断していることが多いと思います。

テレパシーの場合は、経験していないことでも、途中の経過は分からなくても、結論だけが分かってしまうものです。例えば、計算の途中経過が分からなくても、答ができてしまうというようなものです。勿論、途中経過も時間をかければ透視ができるでしょう。

しかし、「今、弓矢から手を離せば、的の中央に当たる・・」という感覚は、経験とテレパシーの両方を活用しているように思います。そこで留意すべきは、経験もテレパシーも相反することではなく、結局どちらも宇宙の意識により“分かる”ということです。

人間の視聴嗅味の感覚は、いわゆる物理的な経験をもとに、それぞれの器官が独自に機能します。テレパシーというのは、この視聴嗅味の延長であるとアダムスキーは語っています。つまり、見えないものを見、聞こえないことを聞き、匂わないものを嗅ぎ、食べていないものを味わうことができる能力なのです。

以上のことから、次のように解釈できるのではないでしょうか。経験も、宇宙の意識があって理解されることを考えれば、日常の経験をより深遠なものと解釈し、意識的に経験の背後への信頼を深めていくことが大切なのです。具体的には、感覚器官を研ぎ澄まし、経験とともに宇宙の意識と同根のテレパシーを活用すれば、道を間違えることは少なくなるということです。こうすることで、自らを成長させることができるのです。やや難解なところもありますが、これらのことを、認識しておく必要があるようです。

“言葉に注目”

＜人間は自分の考えによって体質がきまる＞

by　アダムスキー『金星・土星探訪記』　（中央アート出版社）

食物の専門家は、「人間は食物よって体質がきまる」と言いますが、アダムスキーは、「人間は自分の考えによって体質がきまる」と言っているものです。肉体の中に摂取する食物の化学反応は、各自が感じるとおりの結果を起こします。私たちが、食物を食べるときの感情の状態は、栄養分の吸収とエネルギーへの転換に際して重要な要素になるというものです。つまり、食べるときの感情で、自己の肉体が作られて体質がきまるのです。このため食事のときは、栄養摂取しやすいような感情の状態（例：穏やかな楽しい気分）が必要なのです。

「生命の科学」学習のポイントPart２１　　by　アダムスキー（中央アート出版社）

今回は、レクチャー１生命の分析の８回目“信念は現象化の基礎”という項目です。

この初めに、『「盲目的な信念に従いたくない」とあなたはここで言うかもしれません。しかし、「自分でやれる」とあなたの内部の奥深く感じる物事を達成するには、右の方法を応用する必要があります。』と書いています。

「盲目的な信念」については、「あなたが自分の家を設計しているときは盲目的な信念を応用しているのです。」と説明しています。これは、コンクリートやプラスターによって、家が完成していなくとも完成できると信じている行為だからです。アダムスキーは、私たちの日常生活の９９％は、この盲目的な信念に従っていると言っています。

ここで留意すべきは、「盲目的な信念」には２つの解釈があるということです。一つは、宇宙の意識を内奥で感じて、日常の習慣に従わないことから、そのことを軸に盲目的な信念と呼ぶような場合。もう一方は、日常の習慣により行動し、宇宙の意識を無視していることから盲目的な信念と解釈する場合です。ここでアダムスキーは、前者の解釈を盲目的な信念と呼んでいます。

そして、「信念は、あらゆる現象化の基礎です。」と語り、人間は、“信念”によって、不可視のものを現象化できると教え、宇宙の意識に盲目的に従う能力を“信念”と呼んでいるのです。こうして人間は、宇宙の意識の指導に頼ることになり、宇宙の意識と人間の心は一体化し、原因である神と結果である心が融合して行くと説明しています。

＜名言格言編２１＞

“人を見て法を説け”　これは、釈迦の言動から生じた言葉だと言われています。意味としては、人を説得したり諭したりするときは、相手の性格や環境などを考えて、その人に相応しい方法で対応するということです。これは、最も基本的であり、人間社会において極めて重要なことであると思います。自分の考えを伝えるためには、相手に合わせるということで、平たく言えば、常に相手の立場に立ちながら意向を伝えるということが重要なのでしょう。

Ｑ：宇宙に果てはあるの・・？　　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

Ａ：この宇宙は、約１３７億年前に誕生したと考えられています。この始まりは、ビックバンと言われていますが、 実際には、何もないところから１０の 34 乗分の１ｃｍという宇宙が生まれ、急激なインフレーション（膨張）により宇宙が１０の 100 乗膨張し、１０の 34 乗分の１秒後にビックバンが起き物質が生まれたと計算されています。これが、現在も続いていると考えられることから、宇宙は、固定化したものではなく膨張し続けていると言われています。しかし、これは、あくまで現在宇宙論であり、正しいものかどうかは不明です。

書物紹介

『病気にならない生活のすすめ』　渡部昇一・石原結實 著　ＰＨＰ文庫

本書には、“東洋の智恵は健康の智恵”というサブタイトルがついています。渡部氏は、上智大学名誉教授で、歴史、哲学、人生論などの論客として知られています。一方の石原氏は、医学博士でありながら西洋医学に疑問を呈し、伊東市に断食サナトリウムを開設。ニンジンジュース等を飲ませながら肥満改善や体質改善を行っています。これが、大変な効果を得ているようです。本書では、これらを踏まえ、東洋医学的生活のすすめを提案しています。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催！☆平成２２年５月１５日（土）、７月１０日（土）、９月１１日（土）、１１月２７日（土）、１月９日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

仕事柄、春は特に多忙です。しかし、こうして第２１号が発行できホッとしています。皆さん、花が咲き誇る春を満喫しましょう！

ＵＲＬ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第２１号＞
発 行 日　平成２２年５月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明
（禁無断転載）

ジョージ

G・アダムスキー通信

＜第２２号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒頭語

学生時代、「信仰心とは、人の見ていないところでも善を行うこと。」という趣旨の話を、尊敬している教授からお聞きしました。

これは、人が見ているから、善い事を行うということの対極にあるもので、人の見ていないところでも善行であるという、真に神を信じる行為であると考えられます。

凡人は、人が見ていれば善行を行い、人が見ていなければ不正を行うということが多いのではないでしょうか。このことから、パソコンのネット上や生活の様々な場面で、自分が特定されなければ、何でもできるという犯罪が横行するのでしょう。極端なところ、１００パーセント見つからないことが確約されれば、人は、何をするか分からない生き物なのです。何とも、神を信じない人が多いことでしょうか！

これは、“徳”についても、同じく言えることでしょう。“徳”は、あからさまに行うことで、積み重ねることは難しいものです。なぜなら、人に見せることは、他人から良く見られたいというエゴが背景にあり、自己満足や自己拡張につながるからです。一方、見返りを求めないことが、“徳”と言われるものだからです。

静かに、つつましく、そして、誰にも知られない小さなところで、善を行うことが美徳であり、真に“徳”ある行為と呼べるのでしょう。これは、“愛”にも通じることです。

このこと、つまり、誰も見ていなくとも、常に“神”が見ているという心の持ち方。これが、宇宙に通ずる真の宗教であり、信仰心と呼べるものなのです。誤解されては困りますが、実は、〝宇宙の意識〟に対する私たちの心構えに共通するのです。

西洋文明の得意な、二元論思想（物質と精神を分ける考え方）や合理主義、実利主義、プラグマティズム（実用主義：平易に成果主義）などと言われる考え方は、ある側面で、注目すべき真実を秘めています。しかし、これがある点を超えてしまうと、唯物論、拝金主義へと傾倒し、殺伐とした社会となって、犯罪や自殺者が増えてくるのではないでしょうか。「生命の科学」的視点から見て、大変憂慮すべきことだと思います。

“言葉に注目”

＜私の意志ではなくてあなたの意志が（奉仕として）なされる＞

by　アダムスキー『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、「永遠に生きるためには」というタイトルの中で、イエスの言葉の説明として書かれたものです。イエスは、「肉体を斬る者を恐れないで魂を斬る者を恐れよ」と語っています。これは、魂も斬られることがあることを意味しています。しかし、魂は大霊の潜在性を持っており、魂が創造された目的に向かえば、その潜在は開花します。アダムスキーは、“永遠の生命の目的”のために魂は創造されたとして、「魂自体の持つ領土を捨ててしまい、個我としてのそれ自体をなくして“宇宙の魂”の奉仕のために生まれ変わることが必要です。」と語ります。そして、これが、冒頭の言葉の意味であると言っているのです。

「生命の科学」学習のポイントPart２２　　by　アダムスキー（中央アート出版社）

今回は、レクチャー１生命の分析の９回目“意識とは万物の創造主”という項目です。

意識とは何か？　アダムスキーは、ここで「万物の創造主である生命力であるという意外に、だれも的確に知ってはいません。」として、「･･･最上の表現は、〝警戒（または注意）の状態〟」と書いています。そして、〝警戒〟は、フィーリング（感じること）または知覚の状態と説明しています。つまり、意識の説明というより、意識が体験できると伝えているのです。

さらに、イエスの言葉を引用しながら、見たり聞いたりしないで信じる者は、天国（因＝意識）の領域に入ると説明しています。ここは重要なところで、〝宇宙の意識〟とは、見たり聞いたりしないで、“信じる”ところからスタートするものであると理解する必要があるのです。

この〝宇宙の意識〟を信じられるかどうかは、その個人の魂の歴史、生き方、性向、資質、謙虚さなどと関係し、つまるところ、これがその人の成長段階を示していると思われるのです。

また、私たちを「未加工のダイヤモンド」に例え、あらゆる色を放射するダイヤモンドになるには、苦痛に耐えながら多くのでこぼこ（思考の習慣＝エゴ）を取り除くことを説明しています。

「ころがる石にはコケがつかない」という言葉を引用し、このコケは、人間が宇宙的な英知を持って成長していくことを妨げるので、人間は他の石（諸問題）に打ちあたることによって、磨かれなくてはならないと説明しています。今回も、感じながらの深読みが必要です。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編２２＞

“知るものは言わず、言う者は知らず”　これは、「老子」（小川環樹訳注）第５６章はじめの言葉です。この後に数行続くのですが、私は若い頃、この言葉に強く影響を受けたものです。

つまり、文字どおり、知っている者は、ぺらぺら喋らず、喋っている者は何も知らない者であるという意味です。知っているのに語らないのは、学習の場においては、周りの成長を助けず罪となりますが、一般生活においては、これは真実のように思います。

Q：世界は良い方向に向かっているのでは？　　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かに、他人を助けるために精一杯努力する人々や、素晴らしい発明をされる方々は目立ってきたようです。しかし、一方で、自分勝手に生きている人々も増えてきているのではないでしょうか？　日本においては、犯罪件数の増加が、その証左であると思われます。どうも、今の社会は、人々が、善悪の両極に分かれつつあるのではないでしょうか？

書物紹介

『旧約聖書外典（上・下）』　関 根 正 雄（編）　講談社文芸文庫

旧約聖書・新約聖書ともに、正典が編さんされる中で、そこから外された文書群がたくさんありました。それぞれの理由があるにせよ、重要な資料として残されてきました。それが外典と呼ばれるもので、大変貴重な示唆に富む内容が多いものです。特に、今回ご紹介する「旧約聖書（下）」のエノク書は、「天使たちと交わった」とされるエノクの体験で、現代の異星人コンタクトストーリーではないかと思われるものです。一読をお勧めします。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成２２年７月１０日（土）、９月１１日（土）、１１月２７日（土）、１月９日（土）、３月５日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第２２号をお届けいたします。「生命の科学」の素晴らしさや重要性は、触れるほどに感じるものです。これを理解するためには、日常生活のあらゆる点で宇宙的な賢さが必要でしょう。

URL：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

G・アダムスキー通信 ＜第２２号＞

発 行 日　平成２２年７月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明

（禁無断転載）

＜第２３号＞

G・アダムスキー通信

（ジョージ）

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒頭語

〝「生命の科学」（Science of life）は、なぜ、広まらないのか？〟という疑問は、この書の真意を理解する人々が、当初から思っていることではないでしょうか？

広まらない理由には、①書物が一部の国でしか出版されていない。②真意を理解できる人が少ない。③周知活動の弱体化…などが、一般的に指摘されています。しかし、最も大きな理由は、「実益が見えない！」ということではないかと思われます。

「実益」とは、書物を読み理解し、実践した結果、何がどう良くなったのかということです。この実益は、私たち地球人には、何よりも重視されているからです。

地球上の科学的といわれることに慣れ親しみ、ものを損か得かで判断している私たちは、自然とそのような視点で物事を判断しています。そのことが、実際には、大きな問題なのですが、一般的には当然のことです。

その視点からすれば、①検証が可能である。②再現性がある。ということが、重要なことなのです。「検証可能」とは、第三者が、何らかの手法を用いて、そのことが事実であると立証できることです。「再現性」は、同じ手法により誰が行っても、同様な結果を導くことができるということです。

この視点から見て「生命の科学」は、結果の検証等が困難であるといえるのです。類似事例として、「テレパシー」の検証は、信じない人がいるとその現象が起きにくいと言われており、検証が困難であるのと共通しています。これは、これらを信じる人から見て、大変残念なことなのです。

「生命の科学」は、スペースピープルから地球人へのプレゼントであり、宇宙創造を理解し、総ての因を解き放ち、新生して宇宙に生きる基本的な知識であり、人間には例外なく最重要事項なのですが、なかなか理解されず広まりません。

周知活動の弱体化も意に止めねばなりませんが、検証は困難であっても、「生命の科学」を実践した成功例を集める活動も重要になってきているように思います。

"言葉に注目"

＜日常生活を通じてあなたの想念をチェック・・・＞

by　アダムスキー『２１世紀の宇宙哲学』　（中央アート出版社）

これは、本書の最後尾に掲載されたもので、アダムスキーが重要性を語っている日常の想念について、「自己訓練法」というタイトルで書かれたものです。

方法として、ノートを用意し、左ページに〝非利己的想念〟〝理解に満ちた想念〟〝自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出させるような想念〟などが起こった場合に記す。右側のページには、〝利己的、不安、不満、他人に対する非難、結果だけを見て原因を見ない〟想念類が起こった時に記載するものです。こうして、自己の想念の傾向等を知るものです。これは、大変重要なことですが、自己を客観的に見られないと効果は望めないようです。

「生命の科学」学習のポイントPart２３

今回は、レクチャー１生命の分析の最終回“ころがる石は磨かれる”という項目です。

「人間の立派な能力の真の美しさはコケで覆われて見えなくなっています。」とアダムスキーは主張します。そして、人間が見得るものはコケだけだと言っています。つまり、普段私たちが見ている世界は、コケで覆われた世界で真実は見えていないと言っているのです。続けて、「このコケとは真実の人間を覆っている人間の各種の習慣にひとしい・・。」と語ります。私たちが見ているコケに覆われた世界を引き合いに出しながら、このコケは、真実の人間を覆っている人間の各種の習慣と同じものであるというのです。つまり、人間が習慣というコケで覆われているから、見える世界がコケで覆われているのだと言いたいのです。

「ころがる石は・・・苦痛に耐えたり自己の一部を失ったりしながらも、それはころがり続けます。」こうして、石（人間）は高度に磨かれ美しいデザインが形成されます。これを忍耐と決意によってやり遂げれば、「〝神の国の救世主〟になる‥」と書いています。

そこで、こんな可能性を持つ人間が、このことを了解できるならば、まず、「〝原因と結果〟についてのたえまなき知覚力を養うこと・・・。」を成さなければならないと強調します。「そうすれば心は過去に見てきたとおりの形態物を見るのみならず、形態物の不可視な支持者のことを意識に語らせるでしょう。」と言います。コケ（習慣）を取ることで人間は、やっと真実の世界を見ることができるようになるということです。毎度のことながら、今回も大変重要です。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編２３＞

“鉄は熱いうちに打て”　**何事にも時機が大切であるとの教え。鉄は熱いうちでないと思うように整形することができません。人間も同じで、若いうちは純粋で多くを吸収できますが、年とともに柔軟性や記憶力が弱ります。ある程度の人生経験をつむと、この辺のことは良く理解できるのではないでしょうか。人生は、常に、この時機を見極めることが重要です。「生命の科学」の学習も、学習の時機を逸して後悔などしないよう心したいものです。**

Q：スペースピープルの活動は停滞している？　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：日本では、マスコミの取り上げる件数は減っているかもしれませんが、世界的に見れば、現在でもＵＦＯの目撃報告は少なくありません。派手な情報などは、少ないようですが、彼らは着実に活動しています。現に、私もＵＦＯを目撃し続けています。現在は、嵐の前の静けさと見ることもできる。そんな状況だと思います。

書物紹介

『 ニラサワさん 』　韮澤潤一郎研究会・編　株式会社 たま出版

本書は、ＵＦＯ研究家であり、アダムスキー肯定派である韮澤さんの書物です。自らの思いや体験をつづる一方、質問に答える形のＱ＆Ａや、アダムスキーと彼を取り巻く人物の秘話等々、貴重な話がつづられています。韮澤さんとは、２００２年に開催した「アダムスキー大会」以来の知り合いでもありますが、実際には、多くを知りながら、直接的には話せない沢山の情報を持っていることが分かります。２００３年出版、本書の一読をお勧めします。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成２２年９月１１日（土）、１１月２７日（土）、１月９日（日）、３月５日（土）、５月８日（日）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第２３号をお届けいたします。それにしても今年は猛暑でした。原因は別として、気候変動が起こっているのは確かなようです。

ＵＲＬ：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第２３号＞
発 行 日　平成２２年９月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明
（禁無断転載）

＜第２４号＞

G・アダムスキー通信

（ジョージ）

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒頭語

「目には目を歯には歯を」という言葉があります。これは、聞きなれた言葉であるかも知れませんが、もともとは「ハンムラビ法典」１９６条・２００条、「旧約聖書：出エジプト記」第２１条に記されたものです。

この意味するところは、目をつぶされた者は、相手の目をつぶしてもよく、歯を折られた者は、相手の歯を折ってもよい。与えられた害に対しては、同じような害で報いるというように解釈されています。

「出エジプト記」を読むと、この言葉は、〝償い〟と言う意味で語られていることが分かります。理由がどうであれ、相手に危害を加えたものは、同じ行為をされることで償うという教えです。それだけ罪深く、覚悟が必要な行為であるということでしょう。

イエスの時代になると、「新約聖書：マタイ伝」第５章では、イエスが「目には目を歯には歯を」と教えられていることを肯定したうえで、「だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい」、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と語り、従来の教えを否定しています。

これは、どういう変化なのでしょう？　実は、アダムスキーも、この言葉に触れていて、「モーゼ時代には理解できなかったため、そのように教えたのだ・・。」と言うようなことを語っています。

「目には目を歯には歯を」という教えは、物理的な被害に対して、物理的に対抗するという報復的な思想が込められています。これでは、エゴに対してエゴで対抗するという構図で、解決とはならず、因果が繰り返えされることになります。

一方、イエスの教えは、物理的な被害に対して対抗せず、ある意味で相手の望みに従うという、物理的危害に対して精神的な“愛”で対抗することを説いたものです。

これらの変遷は、人類に対して“エゴ”を中心とする生き方から、“宇宙の意識”を中心とする生き方へ転換するよう伝えた、極めて重要な教えだと見ることができるでしょう。

“言葉に注目”

＜平和というものは個人の意識が宇宙的になるときにのみ見出される・・・＞

by　アダムスキー『ＵＦＯ・人間・宇宙』　（中央アート出版社）

アダムスキーは、各人の意識が宇宙的にならないなら平和は来ないと語っています。彼は、この前段に「人間は一つの固定したあらわれと化していて、その場合、本性として宇宙的であるかわりに個性が優勢となっています。そのために人間はたがいに快・不快の影響を与え合っていて、永遠の平和をしることはありません。」と書いています。

多くの人々や国家が平和を求めていますが、その実現には、“個人の意識が宇宙的”になる必要があるということです。具体的には、肉体の多くの器官が宇宙の意識を信頼しているのだから、人間の心もそれを信用し頼るようになれということです。それは個性を失うのではなく、個性を宇宙の意識の中に没入させるのだと語っています。

「生命の科学」学習のポイントPart２４

今回は、レクチャー２　心とその成分の初回“心とは何か”という項目です。

アダムスキーは、初めに「このセンスマインド（感覚器官の心）は・・・学習を続けながら創造されてゆく過程にあります。それは結果（現象）の観察から波動を感受する感光板・・・。そして大抵の場合、心のくだす結論は自然の法則と一致しません。」と書いています。人間は、心こそ自分の総てであり、信頼しているわけですが、彼は、それを自然の法則と一致しないとして否定しているわけです。

次に、人間の感覚である触覚は、神経の衝動反応であると別枠にしたうえで、心を視聴味嗅の４つの感覚器官に分け、これらは別個に働いていると語ります。そして、「たとえば視覚は美しい花を認めるかもしれませんが、それが放つにおいが嗅覚にとってきわめて不快なものであれば嗅覚はそれを拒絶します。ですから心の統一はすでに破られています。」と言っています。

この解釈は、アダムスキー独自のものであり極めて重要なところです。人間は、四官の体験を積み重ね、視聴味嗅の細胞と脳が連携してそれぞれの認識が完成されます。これが、各人の器官ごとの“好き”や“嫌い”を作り上げていくのです。 これをエゴと呼んでいるのです。ですから、自然の法則と一致するどころか、自分自身でも対立が起こるとアダムスキーは指摘している分けです。この対立は、視覚と嗅覚だけではなく、視覚と味覚、視覚と聴覚、味覚と嗅覚などでも起こることです。これが苦痛や不愉快、他人との対立の原因となっているのです。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編２４＞

“朱に交われば赤くなる”　**人はその環境によって、良くもなるし悪くもなるという教えです。友人の感化力の大きさ、友達を選ぶことの大切さを説いたものです。友達という対象を、もう少し広く捉えれば、学校、職場、地域などの環境も、選ぶことが重要であるということです。更に広く捉えれば、この地球にいる私たちは、当然に肉体、習慣、思考も地球的になっています。逆に言えば、アダムスキー的なことが理解できなくなってしまいます。留意が必要です。**

Q：異常気象は地球温暖化の影響？　　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：気象庁によれば、今年の夏は過去１１３年間で最も暑い夏でした。通常、異常気象と認識されるのは、過去３０年間で１度も起こらないような気象です。その点では、今年の夏は、間違いなく異常気象でしょう。これは、地球温暖化の影響というより、もともとは何らかの自然的変化の結果であり、そのため一連の事象が起こっているのだと思われます。

書物紹介

『実録 自衛隊パイロットたちが接近遭遇した UFO 』 佐藤　守 著　 講談社

著者は、元自衛隊空将・南西航空混成団指令であり、現役自衛隊パイロットやＯＢの証言を集めて書物としたものです。例えば、松島でＧ氏とＭ氏の２人のパイロットが飛行中、Ｇ氏が葉巻型ＵＦＯを目撃、同時に機体の一部が作動しない異常事態が起こった。整備点検後、確認飛行にＭ氏と別のパイロットが飛行。こんどは、Ｍ氏が葉巻型ＵＦＯを目撃。同時に機体異常が起こった・・。こうした事例から「ＵＦＯは確実に存在する！」と書いています。ご一読を！

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成２２年１１月２７日（土）、１月９日（日）、３月５日（土）、５月８日（日）、７月９日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第２４号をお届けいたします。今号発行までの間、災害、事件、きな臭い話など、色々ありました。時代が大きく変化しそうな気配です。

URL： http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第２４号＞

発 行 日　平成２２年１１月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明

（禁無断転載）

＜第２５号＞

ジョージ

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒頭語

近年、「２０１２年・・云々」という種類の本が多く出版されています。この２０１２年というのは、マヤ人の言う「大周期」のサイクルが約５１００年であり、次の終わりが２０１２年１２月２１日ということに由来するようです。

これに呼応するように、一部の書物では、人類滅亡を謳い、その結末を隕石の衝突や地球温暖化による自然災害、または戦争などの人為的原因によるものとしています。一方、この時期を境に人類は生まれ変わり、新しい次元へ移行するという説もあります。

このような説を皆さんはどのように解釈されているでしょうか？　どのように解釈されるにせよ、多くの人々は何らかの精神的影響を受けているようです。

個人的見解ですが、サイクルの一巡をもって、人類滅亡というシナリオはナンセンスであると思います。また、人類が、自動的に生まれ変わるということもないと考えています。

宇宙には、様々なサイクルがあります。地球の自転が約２４時間で、公転が約３６５日。更に、地球の歳差運動（日月歳差、惑星歳差）など、人類の知っているものばかりではなく、知らない様々なサイクルがあるでしょう。これらのサイクルは、単に１巡するということではなく、実際には、螺旋状に進化の行程を上昇しているとも考えられます。

マヤの大周期も、こうしたサイクルの一つと言えるでしょう。その意味では、進化の行程と見ることも出来ますが、誰もが、一斉に進化するということはあり得ません。

宇宙は目的を持って創造され、総てに理由があって変化し発展しています。隕石の衝突、地軸の傾き、気候変動、地殻変動等々・・・、一粒の砂でさえ、その存在に意味があるのです。

この視点からすれば、自然環境において、人類存亡に関わる大きな異変はあり得ないのです。常に、人類が回避できるレベルにおいて、自然的な変化があるはずです。これは正論ですが、如何せん、人類は、本来の軌道を外れて身勝手な生活を続けてきました。実際には、この反省や後悔が、終末予言を肯定し正しい思考を妨げているのです。人類は簡単に滅亡しません。この周期の終わりに、アダムスキーが肯定されるのだと期待したいものです。

"言葉に注目"

＜引力の制御法や、惑星からの安全な離陸と到着に必要な知識について多くを伝えてあげる・・・＞

by　アダムスキー『第２惑星からの地球訪問者』　（中央アート出版社）

これは、本書の中で金星の指導者が語った言葉です。この知識は、自分たちに大いに役立ったので、地球人に喜んで伝えることが出来るというのです。こうして、宇宙を駆けめぐることができる知識を広めることが、宇宙の法則の一つなのだと思われます。

しかし、それには条件があるのです。「地球人は私たちが他の惑星でもっているような万人の幸福を求めてたがいに平和と兄弟愛でもって生きることを学んでいません。」また、「・・・利己的な個人生活よりも、他の世界の人々によって生かされている全包容的生活を取り入れることを学ぶまでは、大勢で来たり滞在したりすることは許されない・・」ということです。地球人が、この理解に至るよう『生命の科学』がもたらされたのだと思われます。

「生命の科学」学習のポイントPart２５

今回は、レクチャー２　心とその成分の２回目“心を意識にまかせること”という項目です。

初めに、「二心では何をやってもだめだ」とイエスが言っています。・・・と書き、「一感覚器官がある物を好み、他の感覚器官がそれを好まない場合は二心ある状態です。」としています。これは、四つの感覚器官の対立を意味し、誠実であれと言っています。

感覚器官は、奉仕の目的のために結束させ、裁きに用いてはいけないと強調します。そして、それをなし得るのは、好き嫌いのない宇宙の意識であると諭します。好きや嫌いは、人間的感情で、当然のものだと誰もが思うでしょう。しかし、アダムスキーは、この感情が、トラブルの原因であると書いています。このような見方、認識が重要なのです。

幸福であろうとするならば、トラブルを回避する必要があります。そのためには、感覚器官同士を尊敬するように指導する必要があるとしています。しかし、具体的には、どうするのか分かりにくいところです。そこで、次のように考えることにしましょう。

感覚器官が感知した結果を、そのまま認めるのです。それが、対立する結果、例えば視覚は綺麗な花と認め、嗅覚が刺激臭と判断した場合は、花は好きだけど臭いが嫌いという個人的な感想ではなく、結果のみを公平に判断するのです。そして、次に「なぜなのだろう？」という疑問をもって探求することが大切なのです。こうすることで、視覚や嗅覚の特性、人間が外界を判断する経路としての役割など、本質的なことが少しずつ理解できるようになるのです。

宇宙に“生きる”　＜名言格言編２５＞

“井の中の蛙大海を知らず”　井戸の中に住む蛙は、外に広い海があることを知らない。自分だけの狭い知識や見解にとらわれて、他に広い世界があることを知らないでいるたとえです。一般の人々は、宇宙や宇宙の法則を知らないで宇宙に住んでいます。正にこれに該当しますが、一方、アダムスキーを肯定できる人々は、宇宙的な視点を大切にしつつ、地球的視点での生き方、法則等々に無頓着とならないようにしたいものです。

Q：友好的な異星人の存在を証明できますか？　※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：地球的な方法によって証明することは出来ません。その意味では、この点は弱いと言えるでしょう。しかし、旧約聖書（外典）、新約聖書（外典）、仏典などを読むと、天使や御使いなどの表現により、異星人と判断できるところが多く存在します。証明は出来ないものの、これだけでも、異星人存在を確信できる人も多いものと思います。

書物紹介　『子どもは親を選んで生まれてくる』　池 上　明 著　日本教文社

著者は、池上クリニック院長で医学博士です。本書によれば、３人に１人の割合で胎児の記憶や前世の記憶を持っていると言うことです。その内容は、各人で詳細は異なるものの大方は同じことを語っています。アダムスキーの言と異なるようにも見えますが、地球的レベルの転生を考えれば、むしろア氏を肯定している内容だと思われます。池上氏の講演会も聞きましたが、子ども達への聞き取りをベースにした“人間の生きる目的”を示唆する興味ある１冊です。

学習会案内　*『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！*

☆東京開催☆平成２３年１月９日（日）、３月５日（土）、５月８日（日）、７月９日（土）、９月１７日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第２５号をお届けいたします。今年は、アダムスキー普及に関わるような、何か具体的な物を残したいと考えています。今年もよろしく！

URL：http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

G・アダムスキー通信　＜第２５号＞

発 行 日　平成２３年１月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明
（禁無断転載）